

2014 年 12 月 4 日「洗足の伝統」

＜ 聖書箇所 ＞「ヨハネによる福音書 13 章 12 節～15 節」

こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。

＜ 説教抜粋 ＞「洗足の伝統」

今日の説教の題名は、「洗足の伝統」です。聖書では、ヨハネによる福音書 13 章 12 節～15 節です。イエス様は、かつて弟子たちの足を一人ひとり洗われました。この場面は、最後の晩餐の場での出来事でした。イエス様はまずペテロからはじめ、全ての弟子たちの足を丁寧に洗って行かれたのです。

このイエス様の行動は、一つの伝統となって引き継がれて行くことになります。現在でも、キリスト教では、この洗足の儀式が行われています。足を洗うということは、一つの儀式にしかすぎません。しかし、その儀式の背後には、イエス様の心情がありました。

身分が高いからといって偉いではありません。むしろ、身分が高ければ高いほど、謙遜にならなければなりません。年が若いからといって劣るものではありません。むしろ、幼な子にも学ぶべきことがたくさんあるのです。世代を越え、命の尊厳性を提示したイエス様でありました。

イエス様の行動の背後には、正に、神様の真の愛があります。親から見れば、子どもは可愛くてしょうがありません。たとえ子どもがたくさんいたとしても、一人ひとりに対する親の愛は変わりません。それぞれの年代の子どもに対してふさわしい愛を、親は与えて行こうとします。

このように、神様の真の愛は、子女である人間に対して、年齢の老若にかかわらず、身分の高低にかかわらず、等しく降り注いでいるのです。「こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか。あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。」。

まず、ここまでであります。イエス様自身が弟子たちの足を洗われて、そして席に戻られたという場面から始まっております。そして、イエス様自身が弟子たちに対して行った行為。その行為の意味がわかるか、そのように弟子たちに尋ねました。

その行為を施した人というのは、弟子から見ると、正に教師であり、そして、主の立場である。それは確かにそのとおりである。ということをまず前提として、イエス様は弟子たちに対して仰いました。では、次です。「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。」。

主人や教師であるからといって仕えられる存在ではありません。むしろ、主人や教師であるからこそ弟子たちに対して仕えて行くべきであるということがここには書かれています。近年、サーバント・リーダーという言葉聞きます。

上に立った人が単に命令をして、従わせることがリーダーシップではありません。むしろ、人々に率先して仕えて行くことが、リーダーシップの模範であるという話もあります。イエス様は、主であり、また教師であるイエス様が弟子たちの足を洗ったからには、この弟子たちもまた、互に足を洗い合うべきであるという主張をしました。

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」。イエス様の行為は、外面的には足を洗うということでした。この行為を通じて、愛の伝統を弟子たちに残したかったのです。一人から始まった伝統が、これほど長い歴史の期間を通じて継承されてきました。このことは、一人の行動が持つ影響力が決して小さいものではないことを示しています。